

〈カラーグラビア&インタビュー〉 賀来賢人「コメディが人生の転機に」

婦人公論

Fujinkoron

№1521 600yen 2019

7/23



「特集」パート主婦900万人のこれから 「非正規」時代の 幸福論



特別付録

2号連続企画 第2弾!
パンダのシヤンシヤン
ごきげんポストカード&しおり

主婦のスキルが
強みになる
両宮処凛×萩原博子×
平賀充記

〈読者アンケート結果発表〉
働き方のリアル
10人十色

〈ルポ〉
会社を辞めたら、道が拓けた!
女優になるため
2万円だけ持つて上京
江口のりこ

「チーム家族」で
支えるがん

生稲晃子
〈ルポ〉患者と家族の「駆け込み寺」

清水ミチコ×尾崎世界観×
箕輪はるか(ハリセンボン)

追悼・田辺聖子さん
林真理子／國村隼

表紙・田中麗奈

2019年7月23日発行 発行所：主婦の友社 編集長：藤田 浩一 編集：藤田 浩一 印刷：主婦の友社印刷部

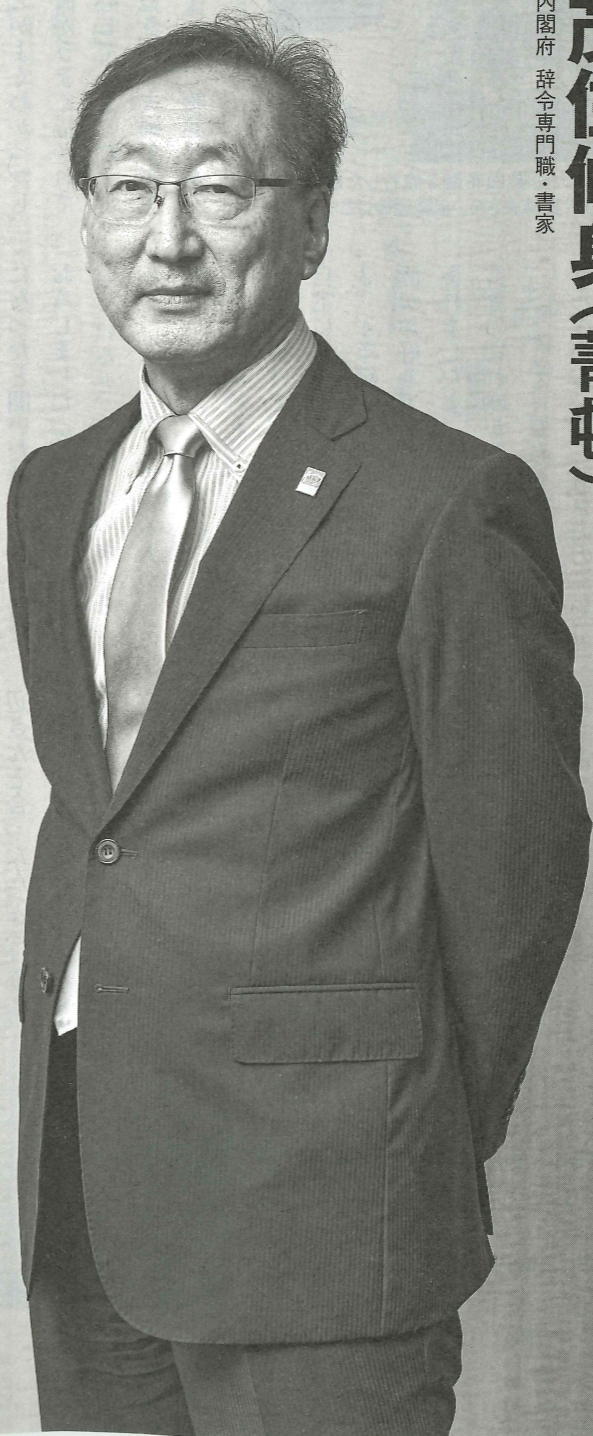
辞令職の業務の一環として「令和」を揮毫しました

構成◎内山靖子 撮影◎本社写真部

4月の新元号発表の日、菅義偉官房長官が掲げた「令和」の二文字を、多くの国民がニュースや号外で眺めたことだろう。この「令和」の文字を書いたのが、茂住修身さんだ。当時の緊張感や書の奥義を、同じ書家として活躍する木下真理子さんが聞いた

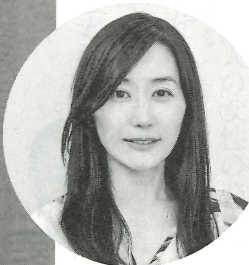
茂住修身(菁邨)

内閣府 辞令専門職・書家



聞き手 木下真理子

きのした まりこ/茨城県生まれ。書家、兵庫県立大学非常勤講師。高木聖雨に師事。映画『利休にたずねよ』、NHK『にっぽんプレミアム』などの題字担当のほか、執筆活動やメディア出演を通して日本の伝統文化の魅力を発信している



新元号を書く仕事とは？

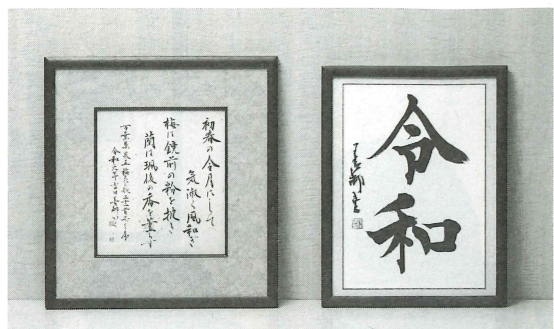
木下 新元号が発表された時、「令和」の文字に思わず見とれてしまったという方も多かったと思いますが、茂住さんはどのようなお立場でこの文字を書いていらっしやるのですか？

茂住 僕は大学卒業後に内閣府の辞令専門官(国家公務員)となり、現在も永田町の庁舎に勤務して

ます。この職は定員2名。欠員が出ないと、何十年の間、募集されません。

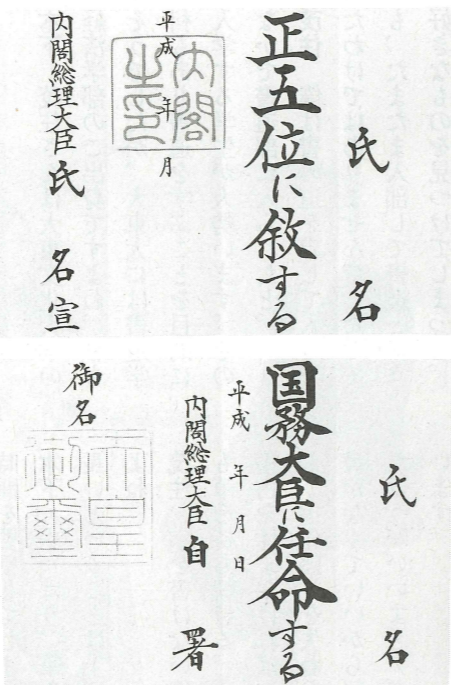
木下 具体的なお仕事の内容は？
茂住 毛筆で公式の文書を書くことですね。たとえば大相撲で優勝した力士への表彰状や、羽生結弦さんが授与された国民栄誉賞の表彰状も僕が書きました。令和最初のものは、大相撲五月場所で優勝した朝乃山閣への表彰状ですね。木下 各省庁の看板もそうですね。

茂住 ええ。でも、賞状や看板は僕らの業務の中のごく一部で、通常は辞令や位記を書いています。辞令は総理大臣をはじめ、国の官職や役職に新しい方が任命される



右/新たに揮毫し、署名、印を押した「令和」 左/新元号の出版となった『万葉集』の序文の一部を漢字か交じりて揮毫した書

際に、その旨を書いて渡す文書です。位記は一般の方にはわかりにくいと思いますが、日本最古の位階制度で、聖徳太子の時代(603年)に制定された冠位十二階から続いています。
木下 それはすごいですね。調べてみれば、位を記す証書でしょうか？
茂住 はい。ただ、第二次世界大戦で敗戦した時に、「人を格付けする制度だから、廃止せよ」とマッカーサーから命じられました。ですが、あまりに長い歴史を持っている制度なので廃止するには忍びない、と。そこで、国の要職にあつた人が亡くなった際に、「功績」を讃えるという意味で、亡くなった日の日付で位記を書いて、遺族に渡すようになったのです。今はそれを1カ月に1000枚近く書きます。
木下 膨大な枚数ですね。まさに国の根幹に関わる大事なお仕事です。この時代にあつて、手で書いているということにも、厳かさを感じます。
茂住 そういう意味では、僕らの部屋は部外者入室禁止。情報が漏洩してはいけないので、机も両脇をパーテーションで区切ってあり、個室のような環境になっています。



位記と官記辞令の見本。狭いスペースでも堂々と見えるよう、また、後から文字が足されないよう、紙の上下いっぱいを書くのも特徴。書状なので左から右へ四つ折りに畳む

木下 日々のお仕事で、大切だと思われることは何ですか？

茂住 プロ意識を持つことですね。自分は文字を書くプロだと思っています。プロというのは与えられた時間、制約の中でベストの力を発揮しようと心がけるものですね。

木下 集中力を高めるために、習慣にしていることはありますか？

茂住 書くという行為のためには、日頃から心身ともにいいコンディションを保っておく必要がある。職場や大学で書道を教える時などは、授業の始めと終わりに、皆で黙想するようにしています。あとは酒飲みが言うのも変ですが(笑)、風邪に気をつけたり、世の中に漂う邪気も祓わなければなりません。まがまがしいものには触れな

いように、すうっと自分から避けるようにしています。

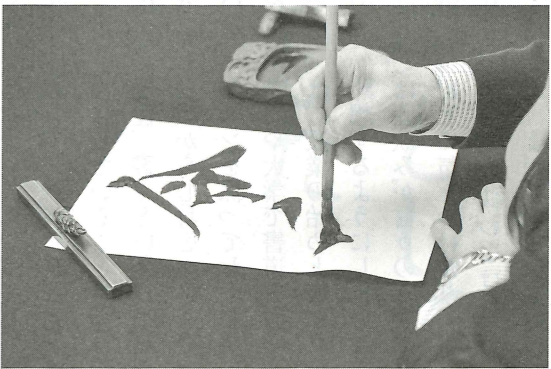
木下 (笑)。祓うのですね。

茂住 毎朝、自宅の神棚に神を上げて手を合わせ、両手に塗香をしてから通勤しています。

「令和」を書いた時の緊張感

木下 新元号を書くことが決まっても、精神的にはどうでしたか？

茂住 あくまで業務の一環とはいえ、元号を書くというのは特別な仕事です。正直な話、揮毫する4日くらい前に一度恐怖心に襲われました。先ほど、「自分はプロ」と言いましたけど、「自分が書くしかなんだ」と思い詰めて、逃げたくなくなってしまい……。長年、書に携わってきたとはいえ、「自分



上/小振りの穂先にもかかわらずスケールを生み出している。まさに熟練の技 下/「令」の右払いの抑揚、最終画のハネと誤解されるが実は「和」の横画の起筆が印象的と木下さん

つなごう日本の書道文化
ユネスコの無形文化遺産に

当時の部員は40人近くいましたが、みんな高校時代から著名な書道展で入賞するようなエリートばかりとことん惨めな思いを味わいました。「負けたくない!」、その一心で、授業にも出ずに、字ばかり書いていました。(笑)

木下 そんな努力の甲斐もあって、書道部の部長になり、卒業後は狭き門の辞令専門官の職にも就かれて。さらにお仕事で書かれる以外にも、プライベートでは、書家・茂任菁邨として活躍していらっしやいます。

茂任 好きなことを仕事にできて、僕はラッキーだったと思います。少しでもヒマがあったら書いていたい。だから、ゴルフは絶対にやらないと決めていました。いったんゴルフを始めたなら、「うまくなりたい!」と熱くなり(笑)、休日の時間を費やしてしまいますから。

木下 やっぱり、筆を持つ時間が長いということは上達の秘訣ですよ。

茂任 字を書けない環境にあっても筆を持ち続ける。事情があっても稽古を休まなければならぬ方に、指先感覚を失わないように、書かなくていいから毎日筆を持ったほうがいいよとアドバイスしています。

ことをお聞きしました。(笑)

茂任 それでも不測の事態に備えて、もらった時間をぎりぎりまで使わず、早めに仕上げました。書の額入れも僕が行っています。

「負けたくない!」
その一心で

木下 茂任さんは大東文化大学の経済学部のご出身ですよ。私もそうでしたが、大東大には書道学科もあり書道を学ぶことを目的に入学する学生が大勢います。そのなかで書道部に入られたと。

茂任 僕は書の道を志して入学したわけではありませんでした。でも、たまたま入部して書道という好きなものを見つけてしまった。

の不得意な文字が新元号に使われたらどうしよう」と。まあ一晩寝たら、「いつも通り、普通に書けばいいんだ」と、吹っ切れました。

木下 平常心というか、あたり前のことを心乱さずに行う。大切にすね。

茂任 「事前に知らされていたんでしよう」とおっしゃる方もいますけど、だったら、もっとうまく書けてます(笑)。ただ、新元号を書く部屋の環境は事前にチェックしに行きました。トップシークレットですから、いつもの部屋ではなく、官邸の中で書いたのです。その部屋の机がどれくらいの高さなのか、空調はどうか。墨で書いた字が乾くのどれくらい時間

がかかるとかを調べておく必要があったので。

木下 確かに、書く時の湿度や温度は、書にとって重要ですね。にしても、にじまないものですね。

茂任 あれは奉書紙をあらかじめ2枚貼り合わせているわけです。

木下 ああ、なるほど。事前に裏打ちされた紙にお書きになられたと。ほかに準備されたことは?

茂任 これもまあ裏話ですけど。当日は朝5時前に起きて氏神様へお参りに行き、前日には師匠の青山杉雨先生のお墓にもお参りしました。自分ができることはして、あとは精神的な支えで助けてもらえるとところは、助けてもらおうと。木下 他力を味方につける。いい

手書きの文字の
魅力とは?

木下 現在、「日本の書道文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されることを目指した動きもあります。そのなかで「書き初め」に目が向けられています。

茂任 もともと書き初めは平安時代の宮中行事でした。僕も毎年、職場のみんなと一緒に書き初めをしています。新年に若水を汲んで、墨をすって。心清らかに、自分なりの思いを筆で書くという風習が、今日に至るまで日本に残っているのは、素晴らしいことですね。

木下 書道の魅力は、書く、観るという行為を通して、「古の心」を追体験することにあると思います。それは例えば、奈良や京都の古寺古社を拝観して楽しむ感覚に似ていますよね。文字や書から、古の人たちの息遣いや美意識を感じることが出来るのです。ただ、近頃は文字に接する機会もパソコンやスマホばかりで、文字が単なる記号として認識されているような気がします……。

茂任 手で書いた文字には自分の

想い、念がこもるのです。手紙を書く場合でも、自分の気持ちを手を通して相手に伝わる。「気が入る」ということがあって、それはパソコンやスマホなどで文字を打ったところで、到底及ばないことです。

木下 そもそも漢字という文字は、今から3000年以上前に物の形を象って造られたことに始まり、千万無量の先人たちによって、長い歳月をかけて少しずつ今の形、書体になりました。その尊さに心を寄せれば、文字や書の見方も変わります。

茂任 漢字はアルファベットのAとは違うのです。英語などと比べて、漢字を使った言語は字数を必要としない、と言われています。それは、漢字には一文字一文字に形・音・意味・感情などさまざまな情報が入って成り立っているからです。平仮名も漢字からできていますが、そのように優れた文字であるということも、きちんと勉強して書いてもらったら、文字ものすごく喜びます。ただ、なかにはいい加減な扱いで書いている作家もいて、自分で勝手に文字を

デフォルメしてひどい形にする。そんなことをしていたら、絶対に文字は泣いています。

木下 「令和」は公文書ですから、正式な公式書体である楷書で書かれました。ただ、楷書は小中学校で習う、みんなが見慣れている書体でもあります。これを先ほど、普通に書いて、とおっしゃいましたが、普通ではない「品格」が漂っているところに、真のすごさがある。最近「伝統」に「革新」という言葉がセットで使われたりもしていますが、書の世界では主張の強さが目立つ、自製のきいて

いな作品が見受けられます。

茂任 個人の感情を書に押しつけても、美になりません。美というのは、人それぞれに価値観は違いますが、やはり大半の人が美しいと感じるものなのだろうと思います。

木下 それが、「普遍性」につながっているということですね。実際、新元号の書は後世に残されていきます。

茂任 みなさんに伝えるだけなら、活字でもいいわけです。それをあえて筆で書いた「令和」を掲げたことで、筆で書く文字の良さをみなさんが感じ取ってくださったと聞いています。僕はそれが大変嬉しいです。

きちん勉強して書けば、文字が喜びます(茂任)



茂任 好きなことを仕事にできて、僕はラッキーだったと思います。少しでもヒマがあったら書いていたい。だから、ゴルフは絶対にやらないと決めていました。いったんゴルフを始めたなら、「うまくなりたい!」と熱くなり(笑)、休日の時間を費やしてしまいますから。